

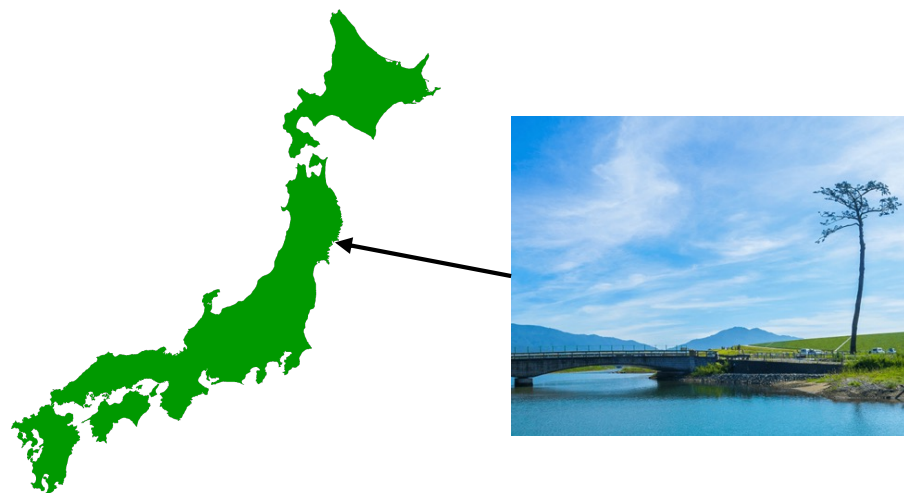
高田
暮舎

たかたくらししや

移住等の促進に向けた実証調査支援業務
若手アーティストや美大生等を対象とした移住及び二地域居住の実証

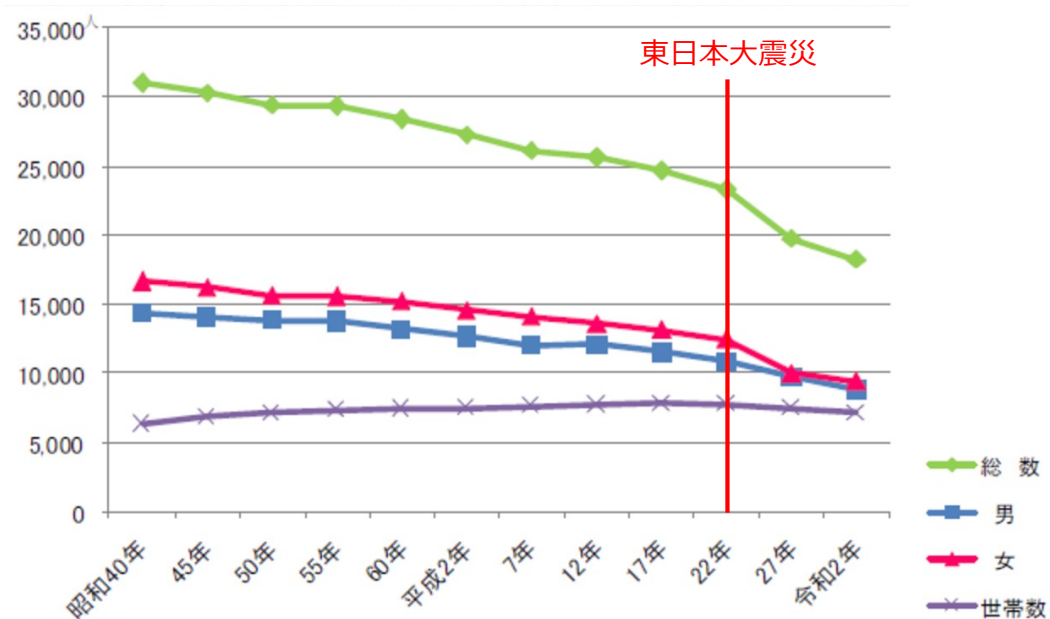
成果報告

地域の特性・抱える課題



陸前高田市（りくぜんたかたし）

- 岩手県の沿岸南部に位置している
- 人口減少が続いている
- 東日本大震災で人口減少がさらに加速した
- 震災風化で関係人口も陰りが出ている
- 非営利団体が多い



事業の目的

陸前高田市の空き家等を活かし、アーティスト・イン・レジデンスプログラム（※1）を行うことで、同市の関係人口増加及び、移住・二地域居住を促進する。

これにより、社会的には担い手及び後継者の確保、消費等の需要創出、雇用創出、関係人口の創出・拡大等を生み出し、参加者個人に対してはウェルビーイングの向上、新たな暮らし方と働き方の実現、学びの機会の創出等につながる等の効果を生み出す。

※1 アーティストが一定期間ある地域に滞在し、常時とは異なる文化環境で制作やリサーチ活動を行う

取組概要

本実証の意義

社会：担い手及び後継者の確保、消費等の需要創出、雇用創出、**関係人口の創出・拡大等**に繋がる
 個人：**ウェルビーイングの向上**、新たな暮らし方と働き方の実現、学びの機会の創出等に繋がる

提案の概要

提案：特定セグメントを対象とした「住まい」「なりわい」「コミュニティ」支援による実証
 意図：UIJターンを含む若者・子育て世代から、さらに特定されたセグメントに対して支援を実施する
 意義：地方それぞれの特色や資源を活かした支援策の検討による「競争ではない共創」へのシフト

若手アーティスト・美大生を対象

魅力や価値向上と訴求によって関心と参加が増える



作品の蓄積による魅力や価値の向上と環境の充実



若手アーティストや美大生等

滞在



- ・ 滞在者：芸術活動に注力でき、多くの人に認知してもらえる環境等
- ・ 地域：地域の担い手確保、消費需要や雇用創出、関係人口の創出・拡大等

「住まい」
 「なりわい」
 「コミュニティ」

安価で手軽に利用できる滞在施設の提供（空き家～シェアハウス）
 半美 X 半○の実現（地域の仕事を組み合わせる年間を通じた仕事を提供）
 芸術活動の共同制作や展示を通じた地域住民との交流

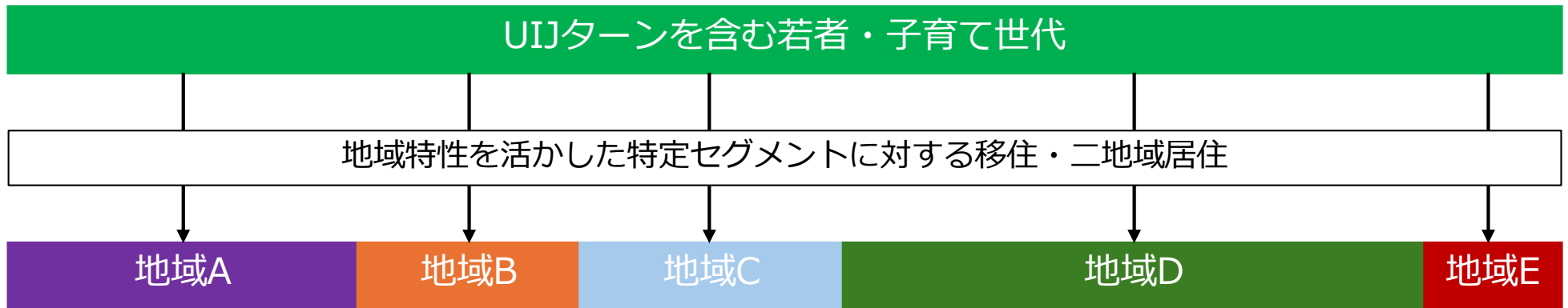
取組の特徴・ポイント

促進策のスコープ

- ◆ 主にUIJターンを含む若者・子育て世代をターゲットとする。
- ◆ 二地域居住等そのものを楽しむライフスタイルのニーズも的確に捉える。
- ◆ 地域との関わり合いの各段階(移住←二地域居住←お試し居住等)それぞれの特性を捉える。

○参考目標値
(移住関係) ■東京圏から地方への移住者 年間10,000人(2027年度)【デジ田戦略】
(二地域居住等関係) ■関係人口の創出・拡大に取り組む地方公共団体 1,200団体(2027年度まで)【デジ田戦略】
■関係人口をコロナ禍前(約2,000万人)に比べて1.5倍程度に拡大(2032年度)【国土形成計画】

※国土交通省「国土審議会推進部会移住・二地域居住等促進専門委員会中間とりまとめ」より引用



前提 地域によって必要な移住・二地域居住の量と質がある
利点1 より適切な地域へ移住・二地域居住ができるため、個人の幸福度が高まる
利点2 より適切な移住・二地域居住者が増えるため、地域の持続性が高まる
利点3 地域間競争の過熱による地域の疲弊が避けられる

連携体制・役割分担



特定非営利活動法人高田暮舎
事業統括
(企画、進捗管理、調整)



山猫堂
拠点連携
(宿泊・活動等の場を提供)



日沼 禎子
専門家支援
(AIR・美大生に関する助言)



陸前高田市
政策連携
(既存委託事業による連携)

地元事業者及び住民
(対象者との交流)

全体スケジュール

・業務工程計画

項目	業務工程								備考
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
企画詳細化～関係者調整	■	■							
事例調査～分析	■	■							全国から事例収集
住民向け説明～合意形成		■							
実証参加者の募集		■	■						個別打診含む
AIRの実証				■	■	■	現在		8人予定
ヒアリング及びアンケート				■	■	■			20人予定
報告書の作成							■	■	
住民向け報告会								■	

従来のアーティスト・イン・レジデンスプログラムとの比較

移住・二地域居住の観点から以下の通り。

＜従来のアーティスト・イン・レジデンスプログラム＞

- 予算が大規模になるため、回数や人数が少ない、また、継続性が低い
- 海外アーティストや著名日本人アーティストなので、移住・二地域居住の可能性が低い
- ゲスト待遇、かつ、制作に集中するため、地域との交流が少ない

＜本事業のアーティスト・イン・レジデンスプログラム＞

- 予算が小規模になるため、回数や人数が多い、また、継続性が高い
- 若手アーティストや美大生等なので、移住・二地域居住の可能性が高い
- 立場が対等、かつ、地域への参加が前提であるため、地域との交流が多い

取り組む中で発生した問題とそれらに対する対応・工夫



<問題>

- ・ 滞在中の移動 **車がないと移動ができない**
 - 本事業では送迎していた + 送迎しやすい住まいやなりわいを選定していた
 - 公共交通機関がない時間帯になりわいがある**
 - 事故防止**のため公共交通機関、自転車等にした

<対応・工夫>

- ・ 地域お世話人を配置 **移動の問題を解消** + 地元住民との交流を深める
 - 結果として8人前後の地元住民が対応してくれている
 - 問題をネガティブに捉えるのではなく、**地元住民が参加する余白と捉える**
- ・ 事故等の対策として、個人保険や誓約書等の対応はする必要がある

事業を通じて得られた示唆・学び（二地域居住を促進させる観点から）

計画した指標以上の結果となった。

①住まい：安価で手軽に利用できる滞在施設の提供

指標：シェアハウスの利用実証

計画：8人

結果：10人

② なりわい：半美×半○の実現

指標：なりわいによる半美×半○の実証

計画：8人

結果：10人

③コミュニティ：創作活動の共同制作や展示を通じた地域住民との交流

指標：地域住民の交流数

計画：80人

結果：約200人 ※延べ人数、イベント15回

事業を通じて得られた示唆・学び（二地域居住を促進させる観点から）

① 事業性の観点

- 特定セグメントを設定すると「対象者 = 関心が高い」「地域 = 深く関われる」となるため、対象者が事業の改善や拡大に積極的に参加する（できる）。
→初期の準備～改善・運営費用が抑えられるため**始めやすく、持続しやすい**
→対象者のコミットや地域や地域住民との関わりが深まる = **事業成果の拡充**

② モデル性の観点

- 特定セグメントを設定する際には、地域の人や資源を整理し、地域の強みを発揮できる資源と紐付きの強い特定セグメントにする、ことが重要である
→アートが好きの人を呼ぶ、というよりは、住民と交流を生むものを選定する
→シーズ > ニーズ 地域起点にすることで**効果と持続性が高まる**
- 一般的な移住・二地域居住は「都市から地方に通う」だが、「地方から地方に通う」の可能性もある
→アーティストの表現をする場は都市に集中している = **東京一極集中の加速**
→都市以外に表現をする場をつくる = **東京一極集中の是正**
- 「地方から地方に通う」の発展として、「地方から地方の送り合い」の可能性もある
→特定セグメントのコミュニティだからこそ送客し合える
→理由：地域側は競争意識ではなく、**共創意識（=仲間）**になるため

今後の展開（来年度の予定、事業化に向けた考え方等）

陸前高田市特化型アーティスト・イン・レジデンス「モグAIR」

関係・二地域居住・移住潜在層の対象を、若手アーティストや美大生等の「特定セグメント」に限定することで、他地域との競争ではなく「共創」を目指す。



今後の展開（来年度の予定、事業化に向けた考え方等）

地域運営組織 × デジタル

デジタル技術を活用し、ロジックモデルを通して管理運営することで、体系的に事業を実施できる体制をつくる

